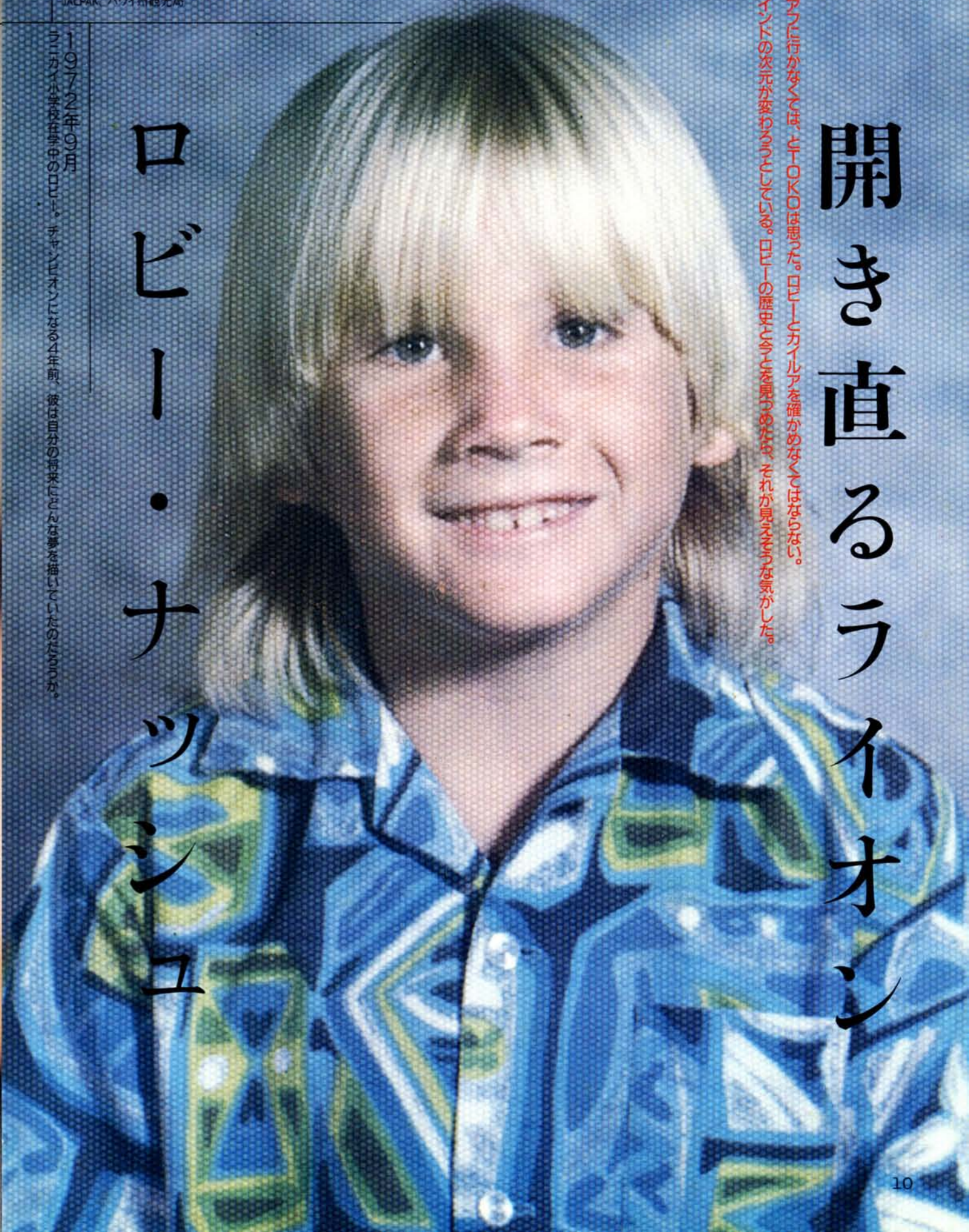


PHOTOS: SUNSTAR/Courtesy Hawaiian Airlines, DARRELL WONG, Y. ISHIHARA, T. TAKIGUCHI, A. SUTO  
CONTRIBUTION: SUNSTAR/REPORT, TOKO  
取材協力: 日本航空、ハワイアン航空、AVIS、JALPAK、ハワイ州観光局

# 開き直るライオン

オアフに行かなくては、TOKOは通じない。ローリーがカイルアを確かめなくてはならない。いま、ライオンの次元が変わる瞬間だ。ローリーの歴史と今を見つめたら、それが見えてきた気がした。



## ロビー・ナツシユ

1972年9月  
ランカイ小学校在学中のロビー。チャンピオンになる4年前、彼は自分の将来にどんな夢を描いていたのだろうか。

1980年12月10日  
手相学の立場でいえば、ロビーはこの右手で、フームと運命を握っている。

感情線と頭脳線と生命線が、火丘の下でほぼ平行に走るサンサイ紋があるから、年を重ねるにつれて人に理解され幸福になる。

生命線と頭脳線が開いてゆくのは、指導的立場につく相。

掌の底が平たいのは、生まれ故郷を離れ、あれこれ苦労したのち平穏な晩年を迎える相。

撮影のとき手を洗うのを忘れた。汚れているのは、車をいじっていたためだと思われる。

ロビーの掌は、中指の先から底まで19cmしかない。

シルバーが、プラチナか。この結婚指輪が嵌められてから4年がたつ。

感情線と結婚線が離れているのは、何度も恋愛を重ねたあげく晩婚した方が幸福になれる相。結婚線が小指の下まで、感情線が火丘まで届いているので、よけいにその傾向が強い。

短い生命線を二の生命線がおぎなう。さらに健康線が両者を縫っている。慢性的に弱い内臓はあるが大事には至らず、75〜80歳までは十分長寿を保つ相。

鑑定・新宿西口小田急前 / 陣子真翠

SCALE: 1/1

ダレル・ウオン

ヒート前に、ナーパスになったロビーが  
ほくのところに飛んできて、  
どのエリアのセイルをはればいいんだ、  
教えてくれよ、と叫ぶんだ。  
アイトンノウ。そんなことほくに聞くなよ。  
(この写真をとった水中写真家)

牧野秀紀

ガンと引き込んでパシッと返すシャイブを  
やっていいのは、ロビーだけなんだ。  
(日本一のスラローマー)

古矢英果

ロビーはすごいよ。はいコレは、じゃあコレはつてね。  
もっともっと何でもできるのに、出しおしみしてるよ。  
(マウイ島パイアを根城にするプロセイラー)

竹原圭子

ロビーですごくカッコいいけど、  
眉と肩がつかつてるから5点減点。  
(凡人セイラー)

神頭士郎

ちようカナわんすねー。  
(体育会系プロセイラー)

中里ヒサオ

うーん……えーっと……うーん。  
(目標は、ロビーに勝つたり負けたりするほど  
強くなることですか。という質問に答えて)  
(日本一のウェイクライダー)

月刊ウインドフラッシュ

それでも  
ロビーを中心に  
世界は回る。

キヤロル・ナッシュ

まだこんな小さかった頃、夜中の2時に突然起きたして  
部屋を片づけはしめるんですよ。  
そんな几帳面なところがある子でしたわね。  
(ロビーの母親)

非科学するの志摩正彦

10年後の彼がどんなことをしているか、  
それが一番興味深い。まさか「あの人は今」  
にはなっていないだろうけど。

# ロビーは凄いなんで、誰が言った

ウインドが上手で勝負強いというのほ、  
彼の主要な性格のひとつである。

TOKO

ほくなんかロビーに晩メシ作ってもうてんど。  
(フリーライター)

池野谷健二

後ろからそっと忍びよって、  
くすぐってやりたいね。  
どんな顔するだろうね。  
(本誌編集長)

桜井隆彦

バックヤードの刺カリーフの上を、  
ボードかついて走っていたよ。裸足で。  
(海洋写真家・IPS主宰)

ランディ・ナッシュ

アロハ(クラシックで)は、ほくの  
「スターシップ」に乗って優勝したんだぜ。  
大したもんだらう。  
(ロビーの兄)

ステファンVDベルグ

ロビー? 怖くないね。  
(ロス五輪金メダリスト)

内田仁

「ロビー」ってのは幼名なんですか?  
顔なんか老けちゃってるけど、  
波の上では今だにヤンチャ坊主  
元氣いっぱいみたいな動きしてるよね。  
(WSF漫画家)

月刊ハイウインド

パーフェクション、ウインドエリート。  
神の物語。豊臣秀吉。子持ち。etc.

鈴木ケイザブロー

いい女。みただよね。いい女って、  
いつ見てもいいもんね。  
(自称女性評論家でもあるプロセイラー)

壺内健

飛ぶねー。  
(知る人ぞ知るマウイライカルス)

真壁克昌

あたしと海とつちがいのの、  
って言われて、海をとったねー。  
夢を追うねー。  
(短大WSFスクール校長)

しかし、ロビーは揺れている。

▼彼がどんな生徒だったのかは知らないが、暇な思春期の、ふとした倦怠感が写っている。



僕の家族は、1968年、僕が5歳のときカリフォルニアから、ヒコカイルアに移ってきたんだ。新しい家は、ポートランプからはほんの2ブロック離れたところだったから、僕はランディはすぐ、ビーチバム（浜を食）になって、スキムボードやサーフフィンばかりやってた。スケートボードもよくやってたね。そのうち、親父とホビーキヤットを始めてからは夢中になって（親父はホビーキヤットの世界チャンピオンだったんだよ）週末になるといつもポートランプのレースに参加していた

## 僕がウインドを始めた理由。



ロビー自身のディーブルーツ



▼世界初のジャンプだったこの写真が撮られた時、ロビーはリンパ腺系の伝染病にかかっていて、げっそりと体重が落ちこんでいた。

あれには本当にビビった。

▼1978年、ミストラルに招待されたスイス・ミストラル選手権に出場するために、僕は家族と一緒に生まれて初めてヨーロッパに行った。試合を終えて、ヨーロッパをプロモーションのためにあちこち回っている時、イタリアのガルダ湖でマイクに会ったんだ。彼はミストラルのセイリングスクールで働いていたよ。マイクは18歳で、僕が15歳で、その頃、2人の背丈は同じくらいだった。僕たちはタンデムボードに乗り、2人でレイライドした。家族でマイクに、"ジョニーナッシュ"という名前をつけて、それから僕らは一緒にヨーロッパを旅した。知らない人は、本当にマイクが僕の兄貴だと思っていたみたいだよ。

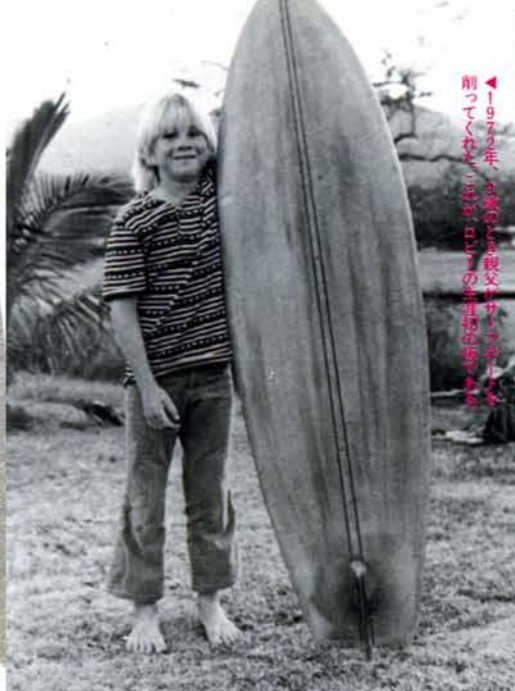
怖いエピソードがあるんだ。ミストラルチームのルームメイトだったジョン・シュレイドの親父の、BMWの最新車を借って、マイクと2人でドライブしていた時の話さ。以前ワサに聞いたことのあるミューンヘンのスケボー公園を捜してんだけど、なかなか見つからなくてね。住宅街を抜けて1ブロック先の交差点にさしかかった時、時速100キロくらい突っ込んで来たバイクが僕の車に激突したんだ。車はめちゃめちゃに壊れて、バイクのライダーはほとんど死ねて、オマエ無免許だろア、と怒り狂ったボリスがマイクを強引に連行しようとしてね。

## マイクが僕の兄貴だった夏のこと。

初めてレースのために遠征したのは、76年パークレーで行われたWS北米選手権なんだ。僕はまずフリー・チケットを手に入れることからはじめてはならなかった。航空運賃はもとより、滞在費すら満足に持ってなかつたんだ。当時、ウインドサーファー協会には招待制度があつた。ハワイにはかなりの量のフリーチケットがあつた。各地区のウイナーにはフリーチケットを1枚くれるという制度なんだけども、その特典を得るには50艇のウインドサーファーを登録しなければならなかつたから、僕たちはそこら中探しまわって、やっと数を揃え、カイルア地区予選をやつたんだ。で、僕が優勝して、フリーチケットを買えたという訳さ。その大会中は伯父の家に泊まり、車も彼のを借りた。パークレーは北米選手権だから、これに優勝すると、今度はバハマで行われるWSワールドのフリーチケットが買えることになった。結局僕は2位だったけど、優勝したマイクが何故かチケットを持っていて、賞品のフリーチケットを僕にくれたんだ。そのバハマで優勝して、今度は77ワールドのサルディニア行きのチケットをもらい、また優勝して78ワールドのキャンタナ行きのチケットをもらって、また優勝して翌年のフロリダ行きのチケットをもらって……。だから、カイルアでもらった1枚のチケットが、僕の運命を変えたのである。その4年間は、いつもカメラマンのステイブ・ウイキンズさんの部屋に泊めてもらっていた。彼はプレスなめて、宿泊はタダなんだ。ひとつしかないベッドに僕はいつももたれながら、親父が持たせてくれたタクティクスメモを取りだしてはその日のレースの反省をして、それから床に寝ていたのさ。



▲世界初のジャンプだったこの写真が撮られた時、ロビーはリンパ腺系の伝染病にかかっていて、げっそりと体重が落ちこんでいた。



▼1972年、3歳のロビーは親父のサーフショップの前で、これぞロビーの真骨頂の姿だよ。



▼親父はホビーキヤットの世界チャンピオンだった。週末になると、ポートランプのレースにいつも一緒に参加した。



▼ぼくたちがグローブや運動場の赤土をひたひたまで掘ったように、ロビーとランディは遠く、そのむこうの海を見て育った。

# LIFE

## ROBBY NAISH

### DEEP ROOTS



▼ナッシュ4兄弟。右から長男のランディ、長女のクリスティ、次女のBelle、そしてロビー。



### 初めてロビーに 会った日のこと。

ぼくが初めてロビーに会ったのは、H  
Wの記者でも何でもない、ただの失業者  
だった3年前の暮、生まれて初めての海  
外旅行で、ウインドの道具一式持ってオ  
アフに行き、初めてヘッドに入った日の  
ことだった。

取材記者としてロビーに接するよう  
になると、かえってロビーに距離を感じる  
ようになった。世界一、それもダントツ  
世界一のパフォーマンスをじっくり見せ  
つけられ続けて、ミーハーの域をすぎて  
しまい、ぼくは勝手に、彼に超人の衣を  
着せてしまったのかもしれない。

「パーサーはウソをしないだろう。  
みたいな変な遠慮があって、それで突っ  
込みなかつたのかも知れない。  
アロハクラシクの取材を終えてオアフ  
に寄ったぼくは、そんな事を考えながら  
カイルアに車を走らせていた。」

### 本音を聞け そうな、友達に なれそうな予感。

ロビーは、ナッシュユハワイの前に車を  
を停め、フロントフェンダーの奥に手を  
突っ込みながら何かゴツゴツやっていた。  
何してるの。

「車の修理してるんだよ。  
そんなの見れば分かるけど、質問の仕  
方が悪かったのか。今回もまたいい取  
材ができないのかと思っただけ、少し暗い  
気持ちになった。  
「ちょっと待っててくれないうか。やつと  
ダッジが売れそうなんだ。カネオへのデ  
イラーに行かなければならない。十々  
幅でくるよ。」  
ロビーは本当にすぐ帰ってきて、ニュ  
ーエキップに関する取材に応じてくれた。  
その後ぼくたちをワンブロック離れたナ  
ッシュユのファクトリーに案内し、工程の  
ひとつひとつを丁寧に説明してくれた。  
（22・23ページ参照）なかなか良い取材  
ができたなと満足して、帰ろうとしたら  
ロビーが言った。  
「良かったら、ボクの家に来ない。  
うん、行く行く行く。」

### 30万ドルの 4LDKと預金 残高について。

●ロビーが僕の家だよ。82年に買った  
んだ。  
●リックに援助してもらったの？  
●ロビーいいや、僕が買ったんだよ。  
●本当？ 日本じゃ無理だね。高か  
ったでしょう？  
●高いよーっ。今だったら30万ドル  
くらいかな。買ったときはそうでも  
なかったけど。あの家なんて（ペ  
ランダに出て、やや小ぶりの隣の家  
を指しながら）1ヶ月前に、70万ド  
ルで売るなんて看板が出て驚いた  
よ。  
●結婚してこの家を買ったんだから  
、独身の頃は両親と住んでたんだ。  
●ロビー。新婚のときも最初の4ヶ月

は借家にいたんだ。この家を買った  
ときも、最初の2年間はベツツイの  
親父さんにローンの返済を助けても  
らったけど、去年それも全部返した。  
●儲かっているね。  
●ロビー。けっこうね。でも僕は無駄  
使いはしないんだ。ビルだって（マ  
イザー・プロウの缶をとり出して）  
ほら、パーゲン・ビールしか買わな  
いしね。昨日もフードランドに行っ  
て、120\$ほど食料を買って帰って  
きたのさ。食事も自分で作るしね。  
たまには女の子を招待して白ワイン  
を出して、すこし御馳走作ってあげ  
ることもあるよ。（笑）  
●銀行に預けたお金は何のため？  
●ロビーもっていい車を買うため。（笑）  
いや冗談だけ。—— そうだなあ、何  
のためかな。—— ナニのためだよ。  
彼女の将来のためだ。

### 時は流れ、 ロビーは変わる。

●浜山の会社が、君をスポンサーし  
たいと言ってくるだろうけど、そんな  
時はどう返事するの？  
●ロビー。関係が深ければ、大変ありが  
たいですが、興味ありません。と言  
う。今、ぼくはミストラル、ガスト  
ラ、オニール、クイックシルバー、  
スリーりの5つのスポンサーがあっ  
て、どれも大きな会社で、僕に十分  
なことをしてくれているし、一つで  
も欠けたらえらいことになる。でも  
僕は「こまごまとしたもの、例えば靴  
だのサンダースだの小さな会社と  
契約を結ぼうとは思わない。WSF  
の市場は決まっているから、広告に  
出すべきは決まってる。僕のイメー  
ジがとんとん安っぽくなってゆくな  
らさ。お金は生活してゆくの十分  
稼いでいるし、少しの収入アップよ  
りもイメージの方が重要だよ。  
でも、それ以外のもの、例えば車  
とかビルとかだったらまた話はち  
がう。今は、そういうゼネラルスポ

ンサーが欲しいね。たとえば航空会  
社とか一社欲しいね。  
●今はそういうタイプのスポンサー  
はないの？  
●ロビー。スポンサーじゃないけど、地域的  
なプロモーションならある。西ドイ  
ツなんだけど、アウディとシヤン  
プーと、チューインガムの3つの会社  
なんだ。  
●アロハクラシクの優勝のスピー  
チで、シチズンのスポンサーシッ  
プについて何か言っていたよ。テニス  
とゴルフを例に引いて。  
●ロビー。ああ、あれ。ぼくが言いたかつ  
たのは、リスクを背負いながらあの  
大会をスポンサーしてくれたシチ  
ズンに対する感謝なんだ。ゴルフや  
テニスのスポンサーだったら、必ず  
その効果が計算できるけど、WSF  
は波が風しだいだからそうもいかに  
ない。ヘタをすれば大損害をくらっ  
てしまう。だから、ぼくは選手  
はそういうキャンペーンをしてくれ  
る。スポンサーに対して出来るだけ  
のことをしなくちゃいけない、みたい  
なことを言ったんだ。  
●ふーん。そうか。ロビーらしい  
発言だなあ。うーん、たとえば、  
君はクイックシルバーのTシャツ  
を着てるよね。いくらロビーでも、  
たまにはOPのシャツを着たくな  
ったり、ニールブライドを使いた  
いと思ったりしないのかなあ？  
●ロビー。そんなことはないよ。僕の  
スポンサーたちは本当にいいもの  
を作ってるしね。—— そうだなあ、リ  
ーバイスとかカルバンクラインだ  
たら着れるから、別に不自由じゃ  
ないよ。

なっているか分かってないとの気済ま  
ない性格なんだよ。—— という。  
こんなロビーは初めてだった。仕事部  
屋に案内して、フロロビーに記憶させ  
た住所録やスケジュールをプリントア  
ウトしてみた。プログラミングは、テキ  
ストを買って、多忙の合間をぬって独習  
したという。レコードをかけてくれた。  
レゲエだった。前にインタビューしたと  
きは音楽は雑音しか聞かえないと言っ  
てたよ。—— 彼は答えた。  
時は流れ、人はかわるんだよ。

### ベツツイと、ナニ と風と人生観。

●聞きにくいことなんだけど、ベツ  
ツイと別居中というの？  
●ロビー。そう、14ヶ月になるかな。  
ベツツイがDHの実家に帰ってしま  
って。普通の夫婦によくありがちな  
問題だよ。僕が旅行ばかりしてるだ  
ろ。一緒に居る時間が少なくなっ  
てしまっただけ。だからさ。  
●離婚しちゃったの？  
●ロビー。いやまだ離婚はしてない。僕たちは  
まだいい友達だし、でもこの状態は  
長く続かないだろうね。—— でも、  
どうかな。よく分からないね。  
●なんか立ち入ったこと聞くようだ  
けど、別の、その、ガールフレンド  
がいるの？

●ロビー。いいや、そんなことはない。いれ  
ばいいと思うけど、時間がないよ。  
旅行ばかりで、女の子と知り合う  
のは難しいよ。でも、ベツツイには  
ボーイフレンドがいるんだけどね。  
●でも、その男よりもロビーの方が  
きつといい男だと思うけど。  
●ロビー。うーん、そうだな、いい男だが、  
世界一忙しいいい男だ。（笑）  
●そうだな。世界一ラディカルな  
いい男だ。（笑）でも、寂しくはない？  
●ロビー。ちょっと前まではね。ずっとバ  
ッドだった。例えば去年の御前崎Wカ  
ップの時なんでもすごく不安定で  
苦しい時期だったよ。新しいボーイ  
フレンドとベツツイがどうなってる  
か分からないのに、僕は日本でレ  
スなくちゃいけないかった。  
●そんなふうには、精神が不安定な時  
は親に影響する？  
●ロビー。どちらかと言えば、自分を見つめ  
られるのでよい結果がでる。

●ナニちゃんはベツツイと一緒に住  
んでるの？  
●ロビー。そうだよ。でもよく遊びに来る。  
昨日も彼女が来て、アルファベッ  
トを覚えてたんだ。彼女はいま一  
懸命な字を覚えてるんだ。バンケー  
を作ったあつたよ。ナニが手伝っ  
てくれるんだ。ナニといるときがい  
ちばん楽しいね。この家にも、彼女  
の部屋がちゃんとあるんだよ。  
●（ナニちゃんに）どんなレディに  
なって欲しい？  
●ロビー。どんな？ そうだなあ。  
彼女は今でも十分に美人だし利口  
だし。そうだなあ、ナニが、なりた  
いものになって欲しいね。  
彼女が何を望もうが僕は反対する  
つもりはないし、彼女がそうなるた  
めの援助は惜しまないつもりだよ。

### ルポルターージュ後記。

ダイニングのカウンターに、プレイボ  
ーイ誌が載っていた。へえ、ロビーでも  
こんな読むんだと思っただけに聞いたら、  
「さう、僕は one hundred reader なんだ  
よ」と言う。へえ、百回も読むんだ。熱心な  
な読者なんだね。違うよ。one hundred reader  
つまり、片手に読むんだよ。分かる？  
その意味を了解するまでちょっとタイ  
ムラグがあったが、まさかロビーがそん  
なこと言うなんて、と、ぼくたちの目は  
点になり、それから爆笑になった。  
●本日はメインランドの義理の妹がPB  
誌で働いて、彼女が毎年年間購読券を  
プレゼントしてくれるんだよ。  
●OK、一応信じておこう。  
●本日は。勝手に送ってくるんだよ。  
●今度、君の片手読みの写真を撮らせ  
てくれない？  
●うーん。そうだな、ノウハウならい  
いよ。（二回大笑）  
●そのあとロビーの手料理（フリット）  
をこっそり食べてもらい、ぼくとカメラマン  
の滝口さんは、やっぱりロビーって分か  
らない人だねと言いつつ、パリハイウ  
エイをワイキキに帰っていったのだ。



▲ロビーの浴室には、ナニちゃんと遊んだ文字パズルや塗り絵のあとがある。

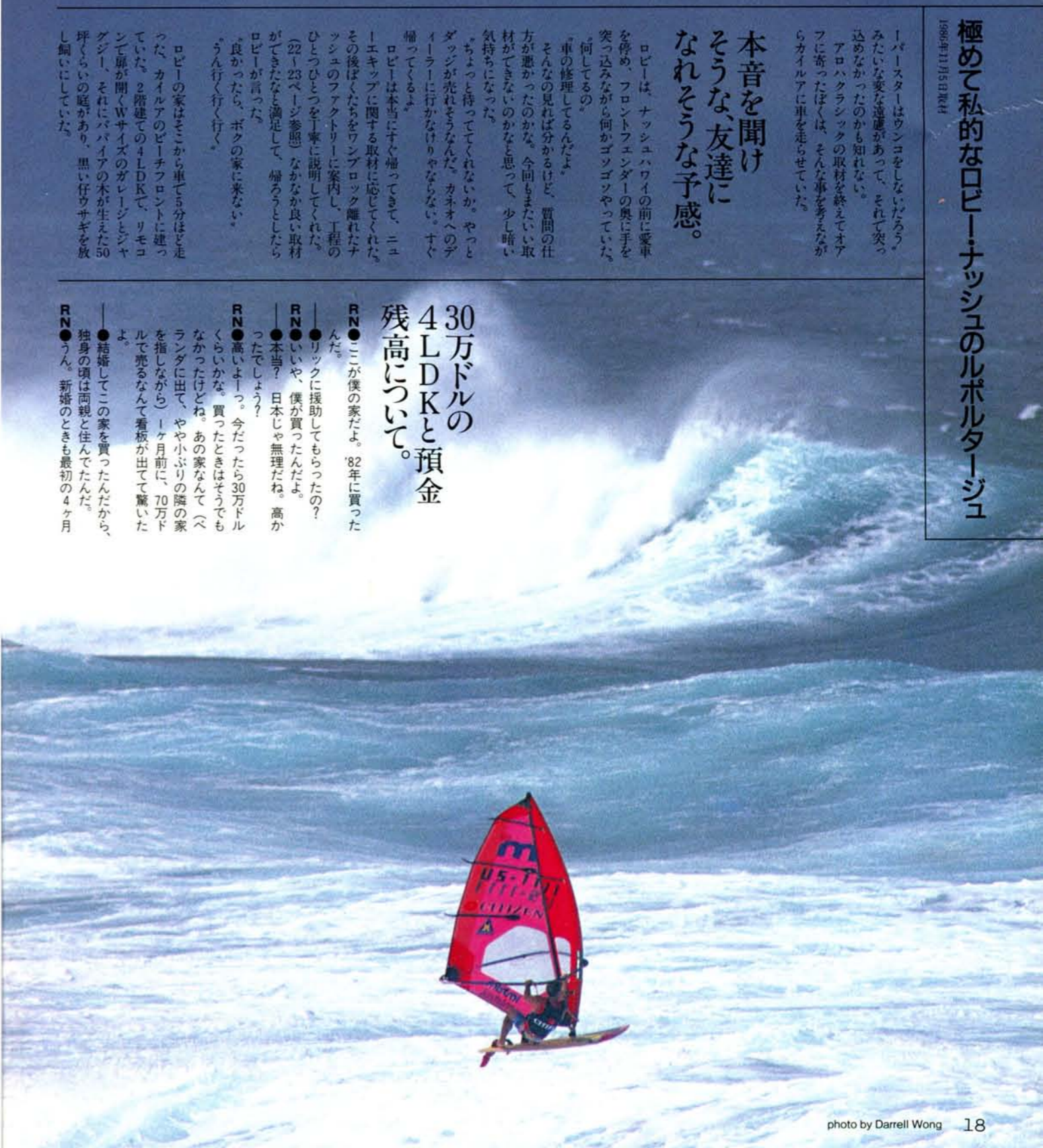


photo by Darrell Wong 18

# 我ら世界500万セイラーの大將 新たなる決意を語る



「時期、ロビーの口からもれたこと言え  
ば、その成績は別にして、もう来年はWカッ  
プに出ないかも知れないとか、勝つことを義  
務づけられたフレッチャーに耐えるのがシン  
ドイとか、そんなネガティブな言葉ばかりだ  
った。ところが、12月のはじめ、ロビーから  
こんな手紙が届いた。」

「またまた強風とフラットなコンディションに  
恵まれたということも理由のひとつなんだけ  
どね。」

「おもしろいことに、スピードセイリングが  
上達するとともに、ジャンピングも前よりず  
っと上手くなってしまったんだ。」

「今、僕らはちょうど新しいスピードボード  
を完成させたところなんだ。まだ誰も見たこ  
ともないようなね。来年(87年)もし時間が  
あれば、自分の練習の成果を試すためにスピ  
ードトライアルに参加してみたいと思ってい  
る。」

「ひとつ気づいたことがあるんだ。  
スピードを練習していて結果的にジャンプ

「が上達してしまったように、いつも何か新し  
いことにトライしていなければ、すぐにマン  
ネリ化してしまうということ。そして、この  
スポーツにはニュートライに対する余地がま  
だまだ沢山残っているということだ。」

「話は変わるけど、僕はマウイやノースの連  
中のセイリング、例えばクレイク・メイソン  
ビルのボトムターンなどに感銘を受けている  
彼らの多くはコンテストで勝つことはできな  
いけど(というのは、ジャッキングには彼の  
流暢さや連続性に重点があるから)、彼らのユ  
ニークな、ファンを追求する姿勢に憧れてし  
まう。彼らは、失なうものがないから、もし  
怪我しても1月海に出なければいいんだから

「ね。でも、彼らのようなセイリングは、僕に  
はできない。なぜなら、Wカップのために怪  
我できないからだ。Wカップは僕のスポンサ  
ーたちにとって非常に大事なものだから、ド  
ロップアウトする訳にはゆかないんだ。」

「でも、最近それでいいと思えるようにな  
った。Wカップという。場。によって、僕が  
メディアに載る量がここ2年間でぐっと増え  
てきた。賞金も増えた。そのうえさつき話し  
たみたいに、スピードトライアルをやること  
でWカップのテクニクが向上して、もっと  
良い成績を残せるかも知れない。そんな僕み  
たいな男がいて、一方にはクレイクやマイク  
みたいな連中がいる。」

「僕がセイリングを初めた76年比べて、今は  
本当に沢山のエキサイトメント、や次元が  
あるね。未来は明るいよ。もう飽きることは  
ないね。生活もかかっているし。」

Aloha,  
*Robby Naish*  
Robby Naish



# 開き直るライオン



人はボクのセイリングを見て、  
背中に「仕事」と書いてあると言う。

そうさ、ボクは冷たいヨーロッパの海でも、  
ひとり勝ち続けてきたよ。

旅と勝負に疲れてしまひ、もう山を  
やめようと悩んだこともあった。

でもなぜかさいきん調子が良くてさ、  
もうひと花咲かせようと思ってるのさ。

